

高校・一般の部 優秀賞

石川 朝子

あの日は青空が広がる暑い日でした。早朝から家の中や外廻りも掃き清め、当局の重大発表をラジオで聞く正午の時報を待ちました。放送が始まってラジオから流れる声は忘れる事のないあの玉音放送であった。それは戦争の終結を告げるものであり、初めて聞く天皇陛下の真の声でありました。頭を垂れて肩を落す祖父と父は神妙な姿でした。祖母と母も同じ面持ちでそっと拭う涙に幼い私には大局的な事は分からず、しかしその時の光景は75年経た今でもはっきりと思い出します。玉音放送が終わっても暫く無言で座っていた祖父と父でした。それは日本は既に制空権も制海権も失い、広島 長崎 の惨禍に戦局の不利な状況は分かっているもいつの日か神風が吹いて日本を救うのではないかと信じて敗北を宣言する事など国民は思ってもいなかったと祖父が後で話してくれました。そして女学校の姉は勉学を捨て勤労奉仕に駆り出されていたが、無差別爆撃が激化して自宅待機の時でした。そんな張り詰めた精神状態の中での玉音放送。大人達はこれからの日本は一体どうなるのかと不安顔でした。それでも祖父と父母は姉と兄も一緒に田園の水草取り、供出する玉蜀黍の収穫に勤しみ、私は祖母の家事手伝いでした。田園に稲の花が丁度咲き始めた頃家族の戦後が一步步始まりました。戦後75年私も齢を重ねました。日本の未来を託す子供達に幸あれと 平和を祈ります。

戦中の標語を思ふ終戦日（朝子）

戦争中私達が授業で誦んじた標語「欲しがりません勝つまでは」

旧麻布区立国民学校 五年生 三宅 阿幾子さん（作）2000年5月逝去 68才